

## 青少年赤十字活動の視点を生かした児童会活動の取組

日上市立河原子小学校

### 1 はじめに

本校の特別活動部では、望ましい人間関係を育むための集団活動に取り組んできた。特に児童会活動の中心となる計画委員会においては、本校の課題解決や学校の活性化を図るための手立てについて話し合い、実践してきた。JRC 活動については、例年5月に「JRC 登録式」を実施し、赤十字の意義や取組を知るとともに、学級ごとに活動目標を発表して、年間を通して活動した。児童会・学級での活動のほかにも、月1回のたてわり班活動の中で、校内や近くの河原子海岸のゴミ拾い等の奉仕活動に取り組んだり、生徒指導部や保護者と連携して、児童によるあいさつ運動を行ったりした。

今年度も、感染症の状況を見て、予防のために注意を払いながら活動をスタートさせた。全校での児童集会「JRC 登録式」は見送り、たてわり班の活動の中に JRC の活動を取り入れて進めていくこととした。

### 2 資料（今年度の実践）

毎月計画委員を中心に、高学年の児童が活動の計画を立て、準備・運営を行った。活動内容は、計画委員の児童が「計画委員だより」を作成したり、給食時に校内放送をしたりすることで全児童に周知するなど、児童が主体となって活動できるようにした。今年度の主な活動は以下のとおりである。

#### (1) 校内の清掃活動

4月、「第1回たてわり班活動」の時間に顔合わせを行った。5月には、初めての異学年交流の活動として、各班が集まる教室の清掃活動に取り組んだ。高学年の児童が、低学年の児童に対して上手な清掃の仕方を教えながら、協力して活動することができた。

#### (2) 朝のボランティア活動

今年度新たに計画した活動である。9月に、たてわり班ごとに学校の「皆のためになる活動」を話し合い、あいさつ運動や昇降口の靴をきれいにそろえる活動等、班ごとに活動内容・日時を設定し実践した。



話し合いの様子

靴をそろえる

#### (3) 砂の造形・海岸清掃

コロナ禍前に毎年実施していた活動である。友達や交流センターの方、応援に来た保護者と協力して砂の造形遊びを楽しんだり、ゴミを拾ったりする活動を行った。この活動を通して地域の特色である河原子海岸の様子を知り、地域を愛する心情を育てる機会となった。



ゴミ拾い

砂の造形活動

### 3 成果と課題

コロナ禍による活動の制限の中、昨年度から少しずつ集団活動に取り組む時間をもてるようになってきた。今年度は、JRC 活動の視点を取り入れながら新たな活動を企画した。9月の「朝のボランティア活動」、10月末の「砂の造形・海岸清掃」の二つの活動は、教師側からの提案ではあるが、児童が主体となって、「みんなのための集団活動」を実践することができた。今後は、児童の思いや気付きを生かした集団活動の場の設定をさらに増やしていきたい。